

1・2級建築施工管理技士

実地試験



※ 1・2級建築施工管理技士・実地試験の概要です。
受験勉強のご参考にしてもらえれば幸いです。

1 経験記述問題の形式と記述上の注意

- 問題の形式
- 記述上の注意

2 実地問題の出題傾向

- 1級実地の出題傾向
- 2級実地の出題傾向

1. 工事概要であげた工事について、あなたが設計図書、施工図、施工要領書などから確認し、管理した**重要品質（建物の重要な性能）を2つ**あげ、それぞれ次の①から③について具体的に記述しなさい。
ただし、2つの重要品質に関する記述の内容は、それぞれ異なるものとする。
 - ① 重要品質として採りあげた理由
 - ② あなたが採りあげた重要品質に関する品質管理活動を行うにあたって、定めた管理項目とそれにかかる工種名、及びその管理項目を定めた理由
 - ③ ②の管理項目をどのように管理したか。
2. 工事概要にあげた工事にかかわらず、あなたの今日までの工事経験に照らして、次の①、②について簡潔に記述しなさい。
 - ① 品質の良い建物を提供するためには、**どのような施工**を行うことが必要だと考えますか。
 - ② 品質の良い建物を提供することは、施工者にとって**どのような意味**を持つと考えますか。

■ 記述上の注意

施工経験記述は、管理技術者として自ら手がけた工事で、特に重要と考えた課題に対して、責任ある立場としてとった一連の処置の過程を、簡潔に記述するものである。

出題される課題は、施工の合理化（工程短縮・省力化）、品質管理、環境保全（建設副産物）、施工計画（2級）に関するものが多い。

全ての課題に対して、「留意した理由」と、「処置または対策」の内容が、**前後の筋が通った説明**になっていることが特に大切である。

また、**乱雑な字を避け**、読みやすい表現を心がけなければならない。文字は多少クセがあっても、**丁寧に書く**こと。誤字や当て字は書かない。さらに数値には必ず単位を付けることを忘れないようにする。

1. 「イ. 工事名」

- ① **木造住宅、あまり小規模な工事**は取り上げない（1級）。また、**解体工事**など建築工事以外の工事は記載しない。
- ② 工事名は固有名詞とし、「**新築**」、「**増築**」、「**改修**」、「**模様替え**」等を必ず書く。
（工事名例） ・ 桑折マンション**新築**工事 ・ 山形ビル**模様替え**工事 ・ 太子ビル**増築**工事 ・ 神崎邸**新築**工事 ・ 盛岡市立〇〇小学校**増築および改修**工事
- ③ 既に**竣工している工事**とするが、あまり古い工事は除外する。概ね過去5年以内に経験した工事と考える。
- ④ **日本国内の工事**に限定し、海外工事は除外する。

2. 「ロ. 工事場所」

県名から記載する。郡名、市区町村名、丁目、番地、番号まで書く。思い出せない場合でも最低「丁目」までは記載する。

- (例)
- ・福島県伊達市〇〇4丁目9番3号
 - ・宮城県大崎市古川〇〇5番地21号
 - ・青森県弘前市〇〇5丁目2番6号
 - ・秋田県北秋田郡〇〇町21番地5号

3. 「ハ. 工事の内容」

■新築等の場合

- ①建物用途：(例)・住宅 ・共同住宅 ・事務所ビル ・公民館
・学校 ・図書館 ・店舗 ・工場
- ②構造：(例)・木造（木造住宅は2級のみ） ・鉄筋コンクリート造
・鉄骨造 ・鉄骨鉄筋コンクリート造 ・RC造+免震構造
- ③階数：(例)・平屋建 ・地下1階、地上6階建 ・地上4階建、塔屋1階
- ④延べ面積：(例)・建築面積：420㎡、延べ面積：1,540㎡
・増築部分延べ面積：630㎡

平屋建以外は、必ず**建築面積**と**延べ面積**を記載する。

- ⑤主な外部仕上げ：(例)・外壁：小口タイル密着張り
- ⑥主要室の内部仕上げ：(例)・床：木製下地カーペット張り、壁：PB下地クロス張り、天井：ミネラートン張り

⑤、⑥については、**記載スペースが足りなくなる場合は、割愛**してもよい。無理に記載すると、文字が小さくなって判読が難しくなる。

■改修等の場合

建物用途・構造・階数：新築等の場合と同じ

- 主な改修内容：(例)
- ①耐震壁補強 : 520㎡
 - ②外装タイル張替え : 1,880㎡
 - ③屋上防水張替え : 2,050㎡

4. 「二. 工期」

- ①平成〇〇年〇〇月～平成〇〇年〇〇月のように月まで記述する。
- ②改修等の場合は、**担当した工種の工期**を記述する。

5 「ホ. あなたの立場」

■1級の場合

現場代理人、主任技術者、**工事主任**、総括所長、現場事務所長、工事長等の名称を記述する。**専門工事業者**（下請業者）の場合は、下請業者における現場責任者の立場として、**現場代理人（専門工事業）**と記述する。

■ 2級の場合

工事主任、施工管理担当員、安全管理担当員、品質管理担当員、施工図作製担当員等があるが、どのようにでも解釈可能な**施工管理担当員**が無難である。

6. 「へ. 業務内容」(現在は2級のみ)

工事総合管理、施工管理全般、品質管理、安全管理、品質管理および安全管理、工務および工事積算、施工図作成業務 等があるが、上記施工管理担当員の立場からは**施工管理全般**が簡単で、どのようにも解釈できるので、無難であろう。

7. 「工種名」について

自分が関わった**工事科目**を記載する。

- ・仮設工事 ・杭工事 ・山留め工事 ・土工事 ・地業工事 ・鉄筋工事
- ・型枠工事・コンクリート工事 ・鉄骨工事 ・ALC工事
- ・防水工事 ・タイル工事 ・石工事 ・屋根工事 ・金属工事 ・左官工事
- ・建具工事 ・塗装工事 ・内装工事
- ・木造軸組工事 ・木造造作工事 (2級のみ) 等



1・2級実地問題の出題傾向

■ 1級実地問題 出題傾向（問題2～4）

問題 2	現場における 管理事項	現場における管理事項（本試験 問題－2）については、現場での経験に基づく知識や管理能力を問うもので、仮設物の安全点検や施工計画上の留意事項に関するもの、労働災害を防止する措置に関するもの等が出題されている。従って、仮設工事及び安全管理を中心に、ポイントを整理しておく必要がある。
問題 3	躯体施工	躯体施工（本試験 問題－3）に関しては、年度により、施工上の留意事項を記述させるか、施工に関する文章の間違いを指摘し適切な語句にする問題で、留意事項を記述させる場合にはコンクリート工事、鉄骨工事に関するものが多く出題されている。従って、躯体施工に関する内容を正確に習得していなければ適切に解答することができない。
問題 4	仕上施工	仕上施工（本試験 問題－4）は、年度により、施工上の留意事項を記述させるか、施工に関する文章の間違いを指摘し適切な語句にする問題で、留意事項を記述させる場合には防水工事、タイル工事、アルミサッシに関するものが多く出題されている。仕上施工に関する内容を正確に習得していなければ適切に解答することができない。

■ 1級実地問題 出題傾向（問題5～6）

<p>問題 5</p>	<p>施工管理 (工程管理)</p>	<p>施工管理（本試験 問題－5）に関しては、平成12年度までは主にネットワークに関する計算または作図問題が出題されていたが、平成13年度以降はバーチャートを判読する問題が出題されている。</p> <p>バーチャートの判読では、作業名のない施工日程に作業名を記入する問題、作業手順上誤っている施工日程を、正しい施工日程に書き直して修正する問題、施工日程の作業着手日と作業終了日を月の上旬・中旬・下旬で指摘したり、誤っている施工日程の理由を説明する問題となっている。ほとんどが中規模程度の建築現場のバーチャート工程表である。</p> <p>従って、躯体工事から仕上工事までの各工種の施工順序が、着工から竣工までの工期の中で、どのように構成されるのが最も合理的であるか、また、各工種の標準的な単位施工量がどのようになっているのかを、過去問題を解きながら習得していくことが効果的である。</p>
<p>問題 6</p>	<p>法 規</p>	<p>法規（本試験 問題－6）に関しては、平成13年度までは「建設業法」「労働安全衛生法」「労働基準法」「建築基準法」「騒音・振動規制法」等からの出題であったが、平成14年度以降は「建設業法」に絞られており、出題内容は次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主任技術者・監理技術者の職務、監理技術者を配置しなければならない請負業者 ・請負契約 ・元請負人の義務、元請負人の義務が課されている理由 ・施工体制台帳作成の目的、施工体制台帳の記載事項、施工体制台帳を作成しなければならない請負業者 等 <p>今後もこの傾向は変わらないと思われるので、特に「建設業法」については十分な理解が不可欠であるが、「建築基準法」「労働基準法」「労働安全衛生法」「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）」等についても、各法令の要点を確実に習得する必要がある。</p>

■ 2級実地問題 出題傾向（問題2～5）

問題 2	用語の説明と 留意事項	建築工事に関する用語の説明と留意事項（本試験 問題－2）については、最近では14の用語から5つを選択して、用語の説明と施工上留意すべき内容を具体的に記述する問題となっている。出題されるのは一般的な建築工事に関する用語が多いので、簡潔に記述することが必要である。 過去問題も含めて習得しておくことが望ましい。
問題 3	工程管理	工程管理の問題（本試験 問題－3）は、毎年ネットワーク工程表が出題され、日程計算からフロートの計算、クリティカルパスの発見、フォローアップ後の短縮日数の計算まで、ネットワーク工程表の計算方法を完全に理解していないと解答できない問題となっている。従って、 ネットワーク工程表のルールと基本事項 をよく理解し、 日程計算の訓練 しておくことが重要である。
問題 4	施 工	施工の問題（本試験 問題－4）は、毎年「文章中、下線部の語句が適当なものは○印、不適当なものは適当な語句を解答欄に記入しなさい」という形式で出題されている。従って、躯体工事、仕上げ工事の施工に関する内容を正確に覚えていなければ適当な語句を解答することができない。
問題 5	法 規	法規に関する問題（本試験 問題－5）は、毎年「下記の各法文において、それぞれ誤っている語句の番号を1つあげ、それに対する正しい語句を解答欄に記入しなさい」という形式で出題されている。出題範囲は概ね、「 建築基準法 」「 建設業法 」「 労働基準法 」「 労働安全衛生法 」「 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法） 」が中心となっているので、各法令の要点を 確実に習得 する必要がある。